

分科会名称：DtoD 遠隔専門医相談システム分科会

分科会長氏名：山田裕揮

分科会長所属：株式会社 Medii

分科会長連絡 E-mail：h.yamada@medii.jp

1. 分科会の目的

Doctor to Doctor (DtoD) 遠隔専門医相談システムの普及・発展に向けた研究活動および情報交換を行うことを目的とする。具体的には、非同期型を含む DtoD 遠隔医療コンサルテーションの有用性に関するエビデンスの蓄積、遠隔連携診療の制度設計に資する知見の整理、および関連するステークホルダーとの連携促進を通じて、専門医偏在の解消と医療の質の均てん化に貢献する。

2. 令和 7（2025）年度活動実績と成果

本年度は、学会発表・シンポジウム登壇・学術提言への参画など、多面的な活動を展開した。主な実績は以下のとおりである。

（1）第 29 回日本遠隔医療学会学術大会（JTTA2025）シンポジウム登壇

2025 年 10 月 24 日、長崎にて開催。長谷川先生（プログラムコーディネーター）が企画した「遠隔連携診療」シンポジウムにて、分科会長・山田裕揮が講演およびパネル討論に参加した。Medii E コンサルを活用した DtoD 遠隔専門医相談の取り組みと分科会活動を紹介し、厚労省医政局のオンライン診療専門官への指定発言も企画された。参加者 30～40 名と盛況であり、DtoD コンサルの持続可能性・マネタイズ・保険収載に向けたエビデンス蓄積の必要性が議論の中心となった。

（2）第 53 回日本救急医学会総会・学術集会

2025 年 10 月開催。

- ・ 演題：救急医療現場における遠隔医療コンサルトの利用実態と可能性
- ・ 発表者：笥みなみ、徳田理奈、山田裕揮
- ・ 内容：救急科・ICU・集中治療科医師による E コンサルの約 4 年半分（計 278 件）のコンサルテーションデータを後方視的に解析し、救急医療現場での遠隔専門医相談の利用実態と有用性を報告した。

（3）日本リウマチ学会 遠隔医療提言への参画

2025 年 5 月、日本リウマチ学会より「関節リウマチ・若年性特発性関節炎（少関節炎型・多関節炎型）・全身性エリテマトーデスの遠隔医療の確立に向けた提言」が発表された。分科会メンバーの山田裕揮・種田健二・古矢裕樹が提言作成委員として参画し、古矢が第一章「遠隔医療とは」を執筆した。

（4）厚労省宮前班研究の完了・報告

2025 年 3 月、厚労省宮前班研究が終了。DtoD 遠隔医療全般に関する研究成果を発表した。遠隔医療学会より追加指摘があり、今後追加執筆を行う予定。古矢裕樹が最終発表資料の共有・解説を行い、本邦にお

ける遠隔医療の基礎知識としてメンバー内で共有した。

(5) ことはじめ 2026 演題採択 (2026 年 4 月開催予定)

第 123 回日本内科学会講演会と併催される「医学生・研修医・専攻医の内科学 ことはじめ 2026」にて、以下の演題が採択された。2026 年 4 月 11 日 (土) 東京国際フォーラムにてポスター発表 (PC プレゼンテーション) を予定。

- ・ 演題：生成 AI 利用後における Doctor-to-Doctor 遠隔コンサルトの内容と役割
- ・ 発表者：宮本隆史、鏑島舞ほか

(6) その他の活動

- ・ Medii E コンサル利用データに基づく研究 (ILD 紹介最適化研究、本邦 E-consult 記述疫学研究、難病希少疾患データベース構築等) を ongoing で推進
- ・ 僻地医療・学校医療・高齢者のデジタルリテラシーなど遠隔医療拡張テーマの探索的議論

3. 令和 8 (2026) 年度活動計画

- ・ 生成 AI と DtoD 遠隔コンサルトの比較研究の継続・学会発表
 - ・ 医療の質向上に関わる保険収載に向けたエビデンス蓄積・政策提言活動の推進
 - ・ 疾患領域横断的な DtoD 遠隔医療のユースケース拡大に向けた研究の推進
- 外部研究者・大学・自治体との連携強化